



ASJA News Letter

Vol.26 December, 2013



アスジャ・インターナショナル事務局 ASJA (Asia Japan Alumni) International
〒169-0074 新宿区北新宿3-22-7 東京日本語教育センター内
3-22-7, Kita-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0074 JAPAN
TEL: 03-5338-1285 FAX: 03-5338-1286
URL: <http://www.asja.gr.jp> E-Mail: info@asja.gr.jp



ベトナムASCOJA幹部会

【平成25年6月8日(土)】

ベトナム・ハノイのベトナム国家大学にて、ASCOJA幹部会が開催されました。ベトナム元日本留学生協会 (JAV) グエン・ゴック・ビン ASCOJA 議長のもと、ASCOJA 幹部、日本側からは、在ベトナム日本国大使館の佐藤哲也二等書記官、佐藤アスジャ事務総長及びアスジャ事務局職員1名が出席しました。

ASCOJA幹部会では、平成25年9月6日～8日にベトナム・ハノイで開催される第20回ASCOJA総会について、スケジュールや会場、記念冊子の内容が話合われました。今年度は日本ベトナム外交関係樹立40周年と日・ASEAN友好協力40周年が重なり、第20回ASCOJA総会を含む様々な関連イベントが開催されるため、意義深い一年です。また、



グエン・ゴック・ビン ベトナム元日本留学生協会 (JAV) 会長・ASCOJA議長

青少年教育振興機構の依頼により、この会の場を借りて、佐藤アスジャ事務総長より、当年度のアセアン加盟国中学生招聘交流事業の準備が順調に進んでいる旨の報告がなされました。また、ASCOJA幹部会の閉会后、同会場でアスジャ理事懇談会も開かれました。

夜には、ベトナム元日本留学生協会 (JAV) 主催の夕食会が開かれました。

第20回ASCOJA総会

【平成25年9月6日(金)～8日(日)】

ベトナムのハノイにて、第20回ASCOJA総会が開催されました。ベトナム元日本留学生協会 (JAV) グエン・ゴック・ビンASCOJA議長のもと、ASCOJA幹部、各国アスジャ理事、日本からは田島アスジャ理事、佐藤アスジャ事務総長、文部科学省 高等教育局 学生・留学生課 留学生交流室柿本晃治郎専門官、独立行政法人日本学生支援機構米川英樹理事、独立行政法人日本学生支援機構留学生事業部留学生事業計画課堤逸郎課長補佐、アスジャ事務局職員2名が出席しました。ベトナム以外のASEAN諸国から約250人、ベトナム国内からの参加者も



ASCOJAの旗が手渡される様子

含めると総勢約380人の元日本留学生が集いました。

初日の9月6日はASCOJA幹部会で始まりましたが、その中で、田島理事及び佐藤事務総長より、アスジャが平成26

ねんど ひき つづ じぎょう じっし がいむしょう よさんようきゅう ほうこく ぎちよう はじ かんぶ
 年度も引き続き事業を実施できるよう外務省が予算要求をしたという報告があり、ビン議長を始めASCOJA幹部、アス
 ジャ理事一同は大変喜び、感謝の意が表されました。夜はVietnam Union of Friendship Organizations主催の
 ゆうしょくかい ひら がつ か そうかい ざい にっぽんこくたいし かんすずきひでおこうし あいさつ の あと
 夕食会が開かれました。9月7日の総会では、在ベトナム日本国大使館鈴木秀生公使などが挨拶を述べられた後、
 にほん きょうりよく がくしきや きちようこうえん おこな つづ
 日本とアセアンの協力について学識者からの基調講演が行われ、続いて、“ASCOJA towards the Cooperation and
 Development of ASEAN and JAPAN”と題したテーマのもと、各国より発表が行われました。夜に開かれた日本大使館
 しゅさい ゆうしょくかい たにぎきやすあきとくめいぜんけんたいし あいさつ さいしゅうび がつ か にっちゅう きんこう
 主催の夕食会では、谷崎泰明特命全権大使が挨拶をされました。最終日の9月8日は、日中はハノイ近郊のバッチャ
 ン陶器村へのツアーが企画され、午後には、アスジャ理事懇談会が開かれました。夜は、盛大な閉会式において、現
 とうきむら きかく ごご りじこんだんかい ひら よる せいだい へいかいしき げん
 ASCOJA議長国であるベトナムから次期議長国となるフィリピンへ、ASCOJAの旗が手渡されました。

しずおかけん ふくで およ とちぎけん おやま 静岡県福田ホームステイ及び栃木県小山ホームステイ

こく ひりゅうがくせいけい めい たいしゅう しずおかけんふくで めい およ とちぎけんおやま めい
 アスジャ国費留学生計8名を対象に、静岡県福田ホームステイ（3名）及び栃木県小山ホームステイ（5名）をそ
 れぞれ5日間実施しました。ホームステイプログラムを通して、学生は日本の生活習慣や文化に対する理解を深める
 ことができました。特に来日してから日本で1人暮らしをしていたので、日本の家族に温かく受け入れてもらい、改
 めて本国にいる自分の家族の有り難味を痛感するとともに心優しい日本の家族が自分の第2の家族であると感じたよう
 でした。また、関係者からの学生の評判も高く、大好評の内に終了することができました。

しずおかけん ふくで

静岡県福田ホームステイ

へいせい ねん がつ か もく にち げつ
 【平成25年8月8日(木)～12日(月)】

さんかがくせい ◆参加学生◆

へいせい ねんど がつき こくひりゅうがくせい めい
 平成24年度10月期アスジャ国費留学生（1名）

へいせい ねんど がつき こくひりゅうがくせい めい
 平成25年度4月期アスジャ国費留学生（2名）

しずおかけん いわたし かたがた きょうりよく え じっし
 静岡県磐田市にて、ボランティアの方々との協力を得て、ホームステイプログラムを実施し
 ました。これはアスジャ国費留学生のために作られたプログラムであり、終始磐田市のボラン
 ティアの方々が付き添って行われました。

しよにち きゅうみつげがっこう けんがく しせつ かた せつめい き めいじじだい じっさい つか
 初日は、まず旧見付学校を見学し、施設の方からの説明を聞きながら明治時代から実際に使
 われていた教材や教具を手にとって、日本の教育制度の歴史について理解を深めました。そ
 の後、飯田正人磐田市教育長への表敬訪問を行いました。飯田教育長は英語でご挨拶を
 下さり、また、留学生一人一人に質問をしてとても温かく迎え入れて下さいました。学生も
 少しずつ緊張がほぐれ、自国や日本留学生生活について話したり、磐田市の国際教育について
 飯田教育長のお話を伺ったりしました。翌日は、まず福田農村環境改善センターにて銭
 太鼓踊り体験活動をさせていただき、留学生たちは進んで真似をして踊り、日本の芸能の楽し
 さを味わいました。その後航空自衛隊エアパーク、ヤマハ発動機株式会社本社を見学し、日本
 の技術の発展の歴史に興味深く学んでいました。夕方、学生達はそれぞれのホスト・ファミ
 リーの家庭へ迎え入れられて、週末をホスト・ファミリーと一緒に過ごしました。最終日には
 再び全員で集まり、大塚製薬株式会社、福田港を見学させて頂きました。

がくせいたち はじ いわたし ちいき かたがた こうりゅう きかい おお いただ さら
 学生達はホスト・ファミリーを始め磐田市の地域の方々とは交流する機会を多く頂き、更に
 様々な施設を訪問して日本と磐田市についての理解を深めることができ、充実した5日間を過
 ぐすことができたこと大変感謝していました。



上から：
 旧見附学校前にて記念撮
 影、旧見附学校内の教室
 を見学する学生、銭太鼓
 踊りを習う様子、航空自
 衛隊エアパークの展示用
 コックピット前で

【ベトナム女子学生】

旧見付学校を見学した際、その建築と歴史に感銘を受けました。日本の教育制度と日本の昔の生活について学ぶことができました。また、日本人とベトナム人の間に、伝統的に学ぶことが好きであるという共通点があることにも気づきました。

楽しくて親切なお父さん・お母さんと過ごすことができ、幸運でした。お父さん・お母さんのお嬢さんの助けによって、皆さんと英語でコミュニケーションを取ることもできました。お父さん・お母さんが私と私の国について関心を持ってくださり、私を助け、何でも分かち合ってくれたことに心から感謝しています。一緒に過ごさせていただいた間、家族の一員のように感じました。（※アスジャにて翻訳）

【タイ女子学生】

磐田市教育長に温かく歓迎して頂いて、緊張がほぐれました。教育長は優しい方です。懇談のとき、やさしい日本の言葉を使って留学生に質問をされました。質問は、留学生の自国の教育のシステムについてなどでした。自国の教育システムと日本の教育システムは多くの相違点があると分かりました。

お母さんと別れる前、何にも言い出せず、お母さんを抱きしめました。実は心の中で泣いてしまいました。でも、皆に泣いているところをみせたくないから、黙ったほうがいいと思いました。永遠に結んだ関係は絶対に切れないです。日本の田舎では市井の人々が平和に生活していると分かりました。日本はどこに住んでも平等で交通が便利だと分かりました。その上、笑顔や誠実さや優しさは外国人から見ても素敵だと思いました。

【ラオス男子学生】

子供たちが楽しくものを作って、伝統も存続していけるようにボランティアをしているお父さんを尊敬すべきだと思った。そして、日本人の習慣でもある、夏のバーベキューが楽しかった。家族でお肉を食べ、ビールを飲みながらしゃべったりした。さらに夜、お父さん・お母さんとやった花火はとてもきれいだった。日本の夏を体験できて、素晴らしかった。ホームステイは初めてだったので、何をするのも楽しかった。毎晩の対話は楽しくてたまらなかった。そして、家の中で色々なことを体験させていただいて、日本の暮らしや習慣などを見習った。一緒に遊んでくれるお孫さんたちにも日本語や子供の遊びなどを教えてもらった。様々な活動をした結果、少しずつ相互理解が高まっていくのではないかなと思った。

とちぎけん おやま

栃木県小山ホームステイ

へいせい ねん がつ にち ど にち すい

【平成25年8月17日(土)~21日(水)】

◆参加学生◆

平成24年度10月期アスジャ国費留学生（1名）

平成25年度4月期アスジャ国費留学生（4名）



今年度も小山国際交流会おひまの主催するホームステイプログラムに参加させて頂きました。このプログラムにはアスジャ国費留学生5名の他、宇都宮大学の留学生3名も参加しており、留学生同士の交流も生まれました。

初日は、茶道体験、ピアノミニコンサート鑑賞をしました。その後、アスジャ留学生の一人がフィリピンに昔から受け継がれてきた童謡を披露し、自国の文化を紹介しました。最終的にはアスジャ留学生全員と参加者の皆で合唱になり、異文化交流が行われました。翌日は、栃木の伝統文化である間々田紐作成体験をしました。学生達は、手作り一つ一つ丁寧に作る間々田紐を見て、日本人の手先の器用さに驚いていました。3日目は、全お父さん・お母さんが集合し、皆でバーベキューやぶどう狩り体験をしました。他のお父さん・お母さんの方や宇都宮大学の留学生とも交流し、アスジャ以外の留学生と友達になりました。4日目は、日産の栃木工場を見学し、日本の最先端技術を目の当たりにし、留学生たちは驚いていました。日本の自動車为何故信頼性が高いか再認識したようです。最後の日は、折り紙体験とお別れ会が行われました。そこでは、留学生それぞれが5日間のホームステイを振り返って感想を述べました。お父さん・お母さんへの感謝の思い、日本文化体験の感想などを述べました。皆、お父さん・お母さんと別れるのがとても寂しかったようで、次回の訪問を約束しました。

こくひりゅうがくせいたち かたがた
アスジャ国費留学生達は、ホスト・ファミリーの方々
 かぞく いちいん わ へだ せつ くだ
 が、家族の一員として分け隔てなく接して下さったことが
 うれ にほんご はな
 とても嬉しかったようです。また日本語がそれほど話せない
 がくせい たい やさ せつ くだ にん
 学生に対しても、優しく接して下さり、5人ととても
 じゅうじつ じかん す
 充実した時間が過ごせました。

(写真左上) お茶のお手前を受けるアスジャ学生、(右上) 栃木県無形文化財の間々田紐の作り方を教えて頂く学生、(左下) 太平山神社の前で記念撮影、(右下) 最後日のお別れに学生全員と小山国際交流会おいふぁ鈴木理事長とホームステイ参加学生で記念撮影



学生感想

【マレーシア女子学生】

私のお母さん(ホストマザー)はいつもエネルギッシュで、日本の歴史的な名所から料理や陶器についてまで、知らないことがないような素晴らしい女性です。もっと驚いたことは彼女の謙虚な姿勢です。私は日本語が上手くないので、いつも自分の気持ちをきちんと説明できなかったのですが、彼女はこの5日間一度もいらした様子を見せずに、私の言葉を忍耐強く待ってくれました。お陰で最初の不安や緊張は徐々に、自信と喜びに変わっていきました。(※アスジャにて翻訳)

【インドネシア男子学生】

このホームステイプログラムの後、友人に小山市のことを話した時に、その友人は「小山には何があるの?」と聞いてきました。私は、小山に何か見所はあったか考えました。しかし、私は小山に物質的な名所や建物があつた訳ではなく、そこには素敵な人々がいたことを思い出しました。私は他の有名な歴史的な名所のある都市と比較した時、これが一番大切なことだと思いました。小山の人たちは、まるで実家にいるかのようなリラックスした気持ちにさせてくれ、ずっとここに住みたいという気持ちを起こさせてくれました。(※アスジャにて翻訳)

【マレーシア女子学生】

お母さん(ホストマザー)は用事があるので、私は鈴木さんの家で一泊することになりました。それで、鈴木さんの家でホームステイしているほかの3人と、アスジャのスタッフと一緒に小山を回りました。着物屋さんや、栃木県伝統工芸品の間々田紐を体験することができました。留学生の私にとって、滅多に行かない場所なので、大切な体験ができてうれしかったです。特に間々田紐は、日本の昔ながらの芸術を拝見して、自分特製の間々田紐を作ることができました。歴史的なものを大切に保存して、将来の子供に見せるため、日本人は本当に頑張っていると思います。

【フィリピン女子学生】

日本、特に小山について新しい発見がありました。私は外国から来たので、日本はとても発展した国だと思っていました。ですが、全てが新しいテクノロジーだけではないと知りました。実際は、古いものが大切に保管されていて、私は特に文化や宗教的な石碑が大切に保管されている様子が気に入りました。(※アスジャにて翻訳)

【ミャンマー女子学生】

日産栃木工場の見学が一番印象に残っています。どんな風にいろいろな車の部品が製造され、機械がそれらの部品を組み立てて行くのかを見ることができました。そして、これらの様々な部品が最終的に車になって行く工程がとても興味深かったです。その上、それらが市場に出る前にどんな品質チェックを受けているのかが知ることが出来ました。この日産栃木工場の見学によって、日本製品の質が何故良いと言われているのかが分かりました。(※アスジャにて翻訳)

な す か し

那須甲子ボランティア

へいせい ねん がつ か か にち きん

【平成25年9月3日(火)~6日(金)】

◆参加者◆

へいせい ねん ど こくひりゅうがくせい めい
 平成23年度アスジャ国費留学生 (4名)

へいせい ねん ど こくひりゅうがくせい めい
 平成24年度アスジャ国費留学生 (2名)

こんねんど こくひりゅうがくせい めい こくりつ な す か し せいしやうねんしぜん いえ がいこくせいねん じっせんけんしゅう さんか
 今年度はアスジャ国費留学生6名が国立那須甲子青少年自然の家の「外国青年のボランティア実践研修」に参加

しました。同施設の職員として実際に働くボランティア体験を通じて、日本の青少年教育施設の役割等を学び、日本の小学生、中学生、高校生との交流も深めることができました。

初日に訪問した西郷村立小田倉小学校では、授業参観及び児童との交流活動を行いました。学生は、自国にはない書道の授業や、漢字の教え方に関心を示し、熱心に見学していました。また、2日目には国立那須甲子青少年自然の家の新山雄次所長に「日本における青少年教育施設の果たす役割」と題する講義をして頂き、学生達は施設の取組みを自国の青少年教育と比較しながら高い関心を見せていました。3日目には白河だるま絵付けの活動もさせて頂き、学生達は初めての体験を大変喜んだようです。4日目には、川谷小学校・川谷中学校及び白河実業高校を訪問し、生徒との交流を行いました。

学生達は日本の学校教育の現場をこのように直接訪問できる機会に大変感謝し、多くを学び取っていました。また、国立那須甲子青少年自然の家にて毎日同じ時間に実施された施設整備では、日本の子供たちが責任を持って熱心に掃除を行っている姿を見て、大変感心し、自分たちも見習いたいと感じたようです。

また、学生達は国立那須甲子青少年自然の家の美しい自然の中でボランティア活動をする機会があったこと、施設の方々がこの事業を準備し、丁寧に指導してくださり、充実した活動ができたことにも大変感謝していました。



（写真左上）小田倉小学校で児童の英語の授業に参加するアスジャ学生、（右上）だるま絵付けを体験、（左下）白河実業高校での見学、（右下）那須甲子青少年自然の家の皆さんと一緒に記念撮影

学生の感想

【マレーシア女子学生】

学校訪問へ行く途中、いつも魅力的な緑が見られて、福島は綺麗だと思いました。そして、地元の人が一生懸命生活している様子に深い感動を得ました。4日間、色々と体験して、日本人の気持ちを少しですが理解できました。本当に良い経験になりました。福島、白河の皆さんを心から応援します。福島、白河の皆さん、頑張ってください。

【フィリピン女子学生】

私は子供グループに付き添う形でハイキングに参加しましたが、残念ながら仲間とはぐれた上に道に迷いました。しかし、この活動から忍耐と団体行動の大切さを学びました。私が思うにこの那須甲子ボランティア・プログラムは机上の学習ではなく、体験が活動の中心になっていて良かったと思います。（*アスジャにて翻訳）

【タイ女子学生】

自分でだるまの絵付けをして、世界で一つだけのだるまを作れてとても楽しかったです。タイに帰国しても必ず持って帰って家のかざりにしたいと思います。

【カンボジア男子学生】

川谷小・中学校の児童と生徒がカンボジアの旗を作ってくれました。三か月かかったらしいです。特に大変だったのは旗の中心にあるアンコールワットです。本当に感謝しています。

【フィリピン男子学生】

ボランティアとして、施設から子供たちが退所する時に彼らの部屋を点検する役目を勤めました。子供たちへの宿泊場所の提供ということと、子供達に施設の決まりごとを課す（片付けをして退所）という関係がよく分からなかったのですが、子供達の部屋の点検をしながらそれは施設が教育的な役割を負っていることなのだと理解しました。（*アスジャにて翻訳）

【タイ女子学生】

新山所長より、国立那須甲子青少年自然の家がなぜ設立されたのかを丁寧に説明して頂きました。いろいろなことを教えていただきましたが、なかでも、東日本大震災の被災者の避難所として使われたというのが素晴らしいと思いました。

へいせい ねん ど がつ き しゅうりょうしき

平成25年度9月期修了式

へいせい ねん がつ たち か

【平成25年10月1日(火)】

へいせい ねん がつ き しゅうりょうしき どうきょうに ほん ごきょういく おこな しょうがくせい めい しゅう
平成25年9月期の修了式が、東京日本語教育センターで行われ、シンガポールのアスジャ奨学生1名が修
了しました。早稲田大学大学院商学研究科修士課程を修了しました。修了後は、帰国して起業したいと計画して
います。

2010年度生・シンガポール修了生



アスジャ奨学生として日本に来て、東京日本語教育センターでの日本語の勉強をしました。その勉強が日本での日常生活を送る上でとても役に立ちました。また、大学院に入学してから、日本人の友達と交流する時も役に立ちましたし、日本語で行われた授業やゼミにも参加できました。アスジャの3年半の交流活動でルールを守ることやマナーを学びました。例えば、時間を守ることと清潔を保つことです。アスジャの活動では、普段体験できないことや行けない場所に行き、日本の歴史、文化、伝統的な芸術を学びました。活動ごとに事前の詳しい説明があったので、深く理解できました。一番印象に残った活動はASEANトロピカル祭りです。なぜなら、この活動は一番苦しく楽しい活動だったからです。8カ国の留学生と日本人のスタッフと一緒に祭りを計画して、全体の運営をコーディネートすることは大変でした。しかし、他の東南アジアの国々から来たアスジャ留学生の考えを聞くことによって、お互いの理解を深めることができ、他の国の文化も分かるようになり、良かったと思います。また、自分の国を紹介する機会があったおかげで、日本の皆さんから見たシンガポールも分かるようになりました。アスジャでの経験を通して、私も、日本と自分の国、また、日本と海外の国々との友好関係の架け橋として貢献できると思います。

に ほん ぶん かたいけんかつどう か ぶ き

日本文化体験活動:歌舞伎

へいせい ねん がつ か にち

【平成25年10月6日(日)】

に ほん せい かつたいけんけんしゅう じぜん べんきょうかい よくじつ へいせい ねん ど に ほん ぶん かたいけんかつどう
日本生活体験研修の事前勉強会の翌日、平成25年度の日本文化体験活動が
おこな こんねん ど に ほん ぶん かたいけんかつどう えんぼう こくひりゅうがくせい さんか
行われました。今年度の日本文化体験活動は、遠方の国費留学生も参加できる
に ほん せい かつたいけんけんしゅう じぜん べんきょうかい おな しゅうまつ けいかく
よう、日本生活体験研修の事前勉強会と同じ週末になるよう計画したため、ア
スジャ奨学生2名、アスジャ国費留学生19名、佐藤事務総長、事務局3名
の計25名が参加しました。

まず、9:30に国立劇場の会議室に入り、事前勉強会を行いました。
べんきょうかい み え おんながた はなみち か ぶ き とくちょう うえ たいせつ ようご
勉強会では、見得、女形、花道など歌舞伎の特徴をつかむ上で大切な用語や
か ぶ き ひょうげんほうほう たの しかた やくしや けしやう いしやう とくちょう まな
歌舞伎の表現方法、楽しみ方、役者の化粧や衣装の特徴などについて学び、
おんながた だんせい じよせい ふるま しせい くふう じっさい ま ね
女形の男性が女性らしく振舞うためにする姿勢の工夫を実際に真似てみたりし



春興鏡獅子の獅子のレプリカ
人形獅子の前で集合写真

て、楽しみながら学びました。

ちゅうしょく まく うちべんとう いただ がくせいたち まく うちべんとう れきし なまえ ゆらい しょせつ まな か ぶ き
昼食には、幕の内弁当を頂きました。学生達は、幕の内弁当の歴史や名前の由来の諸説についても学び、歌舞伎
たの べんとう た え ど じだい ひとひと おも は ちゅうしょく いただ
を楽しみながら弁当を食べた江戸時代の人々に思いを馳せながら昼食を頂きました。

ちゅうしょくご こくつつけきじやう だいききじやう じっさい か ぶ き かんしやう ひ えんもく いちのたにふたばぐんき しゅんきやうかがみ
昼食後、国立劇場の大劇場にて実際の歌舞伎を鑑賞しました。この日の演目は、一谷嫩軍記および春興鏡
獅子でした。一谷嫩軍記は源氏と平家の戦いの時代の物語で、学生達は劇中に描かれた日本らしい忠義の精神
じつ おやこ まつもとこうしろうし いちかわそめごろうし えん ふし かぞくあい ふへんてき しゅだい あじ かんしやう
や、実の親子である松本幸四郎氏と市川染五郎氏が演じた父子の家族愛など普遍的な主題を味わいながら鑑賞しまし
た。また、一谷嫩軍記では劇中に馬が登場して華やかに花道を行き来する様を見ることができ、馬上の武者姿の
やくしや うみ なか たたか ようす えんきんほう もち ひょうげん ぶたい くふう じっさい み まな
役者たちが海の中で戦う様子を遠近法を用いて表現した舞台の工夫も実際に見て学ぶことができました。

め えんもく しゅんきやうかがみ じし おんなこしやう やよい ちからづよ しし せい ひとりふたやく えん いちかわそめごろうし
2つ目の演目の春興鏡獅子では、おとなしい女小姓の弥生と力強い獅子の精を一人二役で演じた市川染五郎氏
ひ こ えんぎ かんしやう とく いちかわそめごろうし おんながた えん やよい たいへんうつく
の引き込まれるような演技を鑑賞しました。特に、市川染五郎氏が女形で演じた弥生が大変美しかったこと、ま
しし せい たいへんちからづよ どうどう あ おな やくしや えん おも しょうさん がくせい
た、獅子の精が大変力強く、堂々としていたことを挙げて、同じ役者が演じていたとは思えないと称賛していた学生
おお
が多くいました。



学生の感想



写真左から：アスジャスタッフから歌舞伎についての講習を受ける参加学生達、講習に熱心に聞き入る学生、観劇には欠かせない幕の内弁当を頂いた昼食の様子

【マレーシア女子学生】

獅子の首回しの技、実際に目の当たりにしたら、言葉にならない迫力があつた。獅子の毛が空中で回転し、スピードがますます上がっていき、その場面を一つずつ見る事が出来て私にとって、とても貴重な瞬間であつた。「春興鏡獅子」の役者が一人で「弥生」や「獅子の精」を演じることに、練習や長年の経験の素晴らしさを感じた。

【タイ男子学生】

歌舞伎役者はみんなの行動がてきぱきしていて、顔の表情に意味があり、それぞれの表情が観客を感動させます。例えば、悲しい時の行動は顔の表情を大変オーバーにしていました。残念ながら、私は歌舞伎を見て全部は分かりませんが、役者の表情が面白く、お話の多くの部分がその役者の表情により理解できました。

【ミャンマー女子学生】

そもそもお芝居というのは人生を演じたものであり、その社会の価値観や出来事を反映させているものであると思います。熊谷直実親子の芝居ではまず戦争についてのメッセージが伝わってきます。戦争には勝者も敗者もない。女は愛する夫を失い、親は子供を失います。勝つ人も負ける人も結局は誰かを失ってしまいます。そして人生観についてのメッセージもありました。劇中の時代では、家族の幸せよりも周りの人からどう見られるのかがより大事だったのでしょ

【ベトナム男子学生】

Despite the difficulty in understanding all the conversations, I could not let my eyes off the stage any second. More specific, in the first play, "A Chronicle of the Battle of Ichinotani", I was very interested in the scenes where the horses - acted by two actors - appear on the stage. The men on the horses were very august, and the play depicted somehow the medieval era.

【ミャンマー男子学生】

I would not have known or believed that both the lady and the lion were the same actor. As Yayoi, he could show the incredible feminine gestures and the dexterity of the hands in handling long sleeves and fan. As the lion spirit, he could show the energetic and masculine nature of the male lion which is the guardian of the paradise.

【シンガポール女子学生】

As with most curious visitors, the one thing that strikes us most was the Hanamichi stage design of the Kabuki theatre. Situated in the midst of the audience, the Hanamichi is a strikingly engaging passageway for the actors to make their entrance. It creates a sense of excitement, or more so, a sense of continuity as the characters enters or exits. And of course, it is an apt platform, for Mie, where the character poses and freeze frame, enabling us to enjoy a dramatic climax for the story.

平成25年度10月期アスジャ国費留学生オリエンテーション 【平成25年10月6日(日)】

平成25年度の日本文化体験（歌舞伎）が行われた日の夕方、平成25年度10月期アスジャ国費留学生（ベトナム女子学生、静岡大学大学院（専門：化学工学））のオリエンテーションを行いました。初めに10月期国費留学生から研究内容等についての自己紹介があり、その後、佐藤事務総長より、アスジャの概要、元日本留学生協会とアスジャの関係、国費留学生の参加事業についての説明がありました。新しいアスジャ国費留学生はアスジャの事業に高い関心を示しており、日本語学習にも積極的に取り組みたいと話していました。

へいせい ねんど がつにゅうがく こくひりゅうがくせい しょうかい
平成25年度10月入学アスジャ国費留学生の紹介

こくせき せいべつ じょしがくせい
 ①国籍・性別：ベトナム女子学生

ざいせき しずおかだいがくがくいん
 ②在籍：静岡大学大学院

せんもん かがくこうがく
 ③専門：化学工学

じこしょうかい わたし かがくだいがく こうし げんざい しずおかだいがく べんきょう
 ④自己紹介：私はベトナムにあるフエ科学大学の講師です。現在は静岡大学で勉強しています。

にほんりゅうがくちゅう か のう かぎ にほん い にほん うつく しぜん たんのう にほんぶんか
 ⑤日本留学中にやりたいこと：可能な限り、日本のいたるところへ行き日本の美しい自然を堪能し、また日本文化に慣れ親しみたいと思います。そして、自分が行く先々で自分の母国ベトナムの文化紹介をしたいと思います。

しゅみ おんがく き す がいこく きょく うた にほん うた なら
 ⑥趣味：音楽を聴くのが好きです。外国の曲を歌い、また、日本の歌も習いたいです。（※アスジャにて翻訳）

Vietnam

だい かい にほんせいかつたいけんけんしゅう ふじさん まつもと かみこうち ぜんこうじ
第14回アスジャ日本生活体験研修：富士山・松本・上高地・善光寺
 へいせい ねん がつ にち もく か にち
【平成25年10月17日(木)～20日(日)】



写真左から：国立中央青少年交流の家にて富士山を背景に全員で記念撮影、諏訪大社の手水鉢でお清めをする学生達、旧開智学校校舎前にて、全員で松本城前にて集合写真

だい かい にほんせいかつたいけんけんしゅう しずおかけん
 第14回の日本生活体験研修では、静岡県・山梨県・長野県にて3泊4日の研修を行いました。アスジャ奨学生3名と、アスジャ国費留学生12名、引率として佐藤事務総長、スタッフ3名が参加しました。主な訪問地として、今年6月に世界文化遺産に登録された富士山とその構成資産、諏訪大社、松本城、松本市内（旧開智学校、武家屋敷）、上高地、善光寺を見学し、静岡県御殿場市の国立中央青少年交流の家では御殿場市の青年団萩原健青会の方々との交流会も行いました。今回、アスジャ国費留学生在が初めて日本生活体験研修に参加しました。

にほんせいかつたいけんけんしゅう さきだ ねん がつ か ど しんじゅく かいぎしつ じぜんけんしゅうかい おこな
 日本生活体験研修に先立ち、2013年10月5日（土）に新宿NSビル会議室にて事前研修会を行いました。今年度は、初めてアスジャ国費留学生も参加しての事前研修会となりました。学生達は日本生活体験研修での見学地等について事前に各自研究し、研究した内容をパワーポイントのプレゼンテーションに準備して集まり、全員が日本語プレゼンテーションを行いました。

じぜんけんしゅうかい がくせい しかいしんこう がくせいしゅたい すず かくじ はっぴよう お はくしゅ かっぱつ しつぎおうとう
 事前研修会は学生の司会進行によって学生主体で進められ、各自の発表が終わるたびに拍手と、活発な質疑応答が行われました。学生達は今回の日本生活体験研修での研修地及び研修内容に関心が高く、現地へ赴く前に少しでも多くの知識を得たいという姿勢が終始見られました。

けんしゅうちゅう こくりつちゅうおうせいしやうねんこうりゅう いえ ひら よてい ごてんぼし せいねんだん かたがた こうりゅうかい そな
 また、研修中に国立中央青少年交流の家で開かれる予定の御殿場市の青年団の方々との交流会に備えて、交流会での発表内容についての話し合いが行われました。学生達は国ごとに様々な提案を出し、意欲的に準備に取り組んでいました。

事前勉強会の様子

写真上から：プレゼンテーションの様子、タイムキーパーと英語通訳の役割を勤める学生、事前勉強会の風景



けんしゅう にちめ かめ ふじさん しゅうへん ふじさん ごうめ かわぐちこ おかだこうようしゃしんびじゅつかん おしのはっかい きたぐちほんぐう
 研修の1日目、2日目は、富士山とその周辺で富士山五合目、河口湖、岡田紅陽写真美術館、忍野八海、北口本宮
 ふじせんげんじんじゃ ふなつたいないじゅけい もとすこ なるさわひょうけつ けんがく あおき がはらじゅかい よる こくりつ
 富士浅間神社、船津胎内樹型、本栖湖、鳴沢氷穴を見学し、青木ヶ原樹海でハイキングをしました。また、夜は国立
 ちゅうおうせいしやうねんこうりゅう いえ しゅくはく にちめ ごてんばし せいねんだんはぎわらけんせいかい かたがたおよ こくりつちゅうおうせいしやうねんこうりゅう いえ
 中央青少年交流の家に宿泊し、1日目は御殿場市の青年団萩原健青会の方々及び国立中央青少年交流の家の
 かんけいしや かたがた こうりゅうかい おこな ぶんかこうりゅう とお たいへん も あ かめ しっぽうやき たいけんかつどう くも
 関係者の方々と交流会を行い、文化交流を通して大変盛り上がり、2日目は七宝焼の体験活動をしました。曇り
 てんこう かめ あさ こくりつちゅうおうせいしやうねんこうりゅう いえ た ちよくぜん ゆき みごと ふじさん
 がちの天候だったにもかかわらず、3日目の朝、国立中央青少年交流の家を立つ直前に雪をかぶった見事な富士山
 すがた ぜんいん み
 の姿を全員で見ることができました。

こうはん かめ かめ ながのけん けんしゅう おこな すわたいしや まつもとじょう きゅうかいちがつこう ぶけやしき かみこうち ぜんこうじ
 後半の3日目、4日目には長野県にて研修を行い、諏訪大社、松本城、旧開智学校、武家屋敷、上高地、善光寺
 おとず かみこうち おこな こうはん あめ かみこうち うつく こうよう せいすい なが み
 を訪れ、上高地ではハイキングも行いました。後半は雨となりましたが、上高地でも美しい紅葉と清水の流れを見
 あた たうなん き がくせいたち めずら こうち こうよう ふうけい たの
 ることができ、暖かい東南アジアから来た学生達は珍しい高地の紅葉の風景を楽しむことができました。

こんかい にほんせいかつたいけんけんしゅう がくせいたち ふだんおとず な やまなしけん しずおかけん ながのけん おとず じもと ひとびと
 今回の日本生活体験研修では、学生達は普段訪れることの無い山梨県、静岡県、長野県を訪れ、地元の人々と
 こうりゅう せかいぶんかいさん ふじさん こうせいしさん ふじさん しぜん にほんさいこ じんじや すわたいしや
 交流し、世界文化遺産としての富士山とその構成資産、富士山の自然、日本最古の神社の1つとされる諏訪大社、
 こくほう まつもとじょう まつもとしない ぶんかいさん かみこうち しぜん こくほう ぜんこうじ まな にほん ちほう けんしゅう とお
 国宝の松本城と松本市内の文化遺産、上高地の自然、国宝の善光寺などについて学び、日本の地方での研修を通し
 にほん にほんぶんか にほんじん りかい ふか
 て、日本と日本文化、日本人についての理解を深めることができました。

とうなん こと くにぐに さんか がくせい あいだ せんばい こうはい あいだ こうゆう ふか さら
 また、東南アジアの異なる国々から参加した学生の間、また、先輩と後輩の間で交友を深めることができ、更に
 しゅうだんせいかつ とお きそく きょうりよく おも たいせつ まな たいへんじゅうじつ ゆういぎ けんしゅう とお
 集団生活を通して規則や協力、思いやりの大切さについても学ぶことができ、大変充実した、有意義な研修となりました。



学生の感想

写真左から：河口湖畔にて記念撮影、忍野八海をガイドさんと見学、国立中央青少年交流の家にて文化交流会、鳴沢氷穴入口をガイドさんと一緒に見学

【マレーシア女子学生】

青木ヶ原樹海は、約1200年前に富士山の噴火活動で流れ出した膨大な量の溶岩が精進湖の周辺を焼いた末にできた森林だが、今回歩いたのは約300年前の宝永大噴火の時に溶岩が流れた土地で、歴史はまだ浅くて若い森である。樹海の植物は長い時間をかけて現在にいたった。私は植物が土のない溶岩の上に一生懸命生きていくことに生命のすごさを感じた。マレーシアでは火山や溶岩などもないので、今回の日本生活体験研修では、青木ヶ原樹海のハイキングが一番印象に残り、とても貴重な経験になった。

【タイ男子学生】

今回の研修では1日目の夜に国立中央青少年交流の家において萩原健青会と交流しました。私はこの交流活動は日本生活体験研修の中で一番大事なプログラムだと思います。私はタイ人の後輩と二人一組で日本人を応援する歌を歌いました。その歌の内容は「東日本大震災のように日本が困った時には世界中の国が助けの手を差し伸べます。」というような気持ちであり、私達ともう一人のタイの学生はその歌を歌って気持ちを皆さんに伝えました。萩原健青会の方々は盆踊りと太鼓を見せてくれたり、一緒に盆踊りをしたりしました。このことで、日本とタイ両国は相互理解を得たのではないかと思います。

【カンボジア男子学生】

事前の勉強会のとき、私は富士山の地理と景観を調査した。山梨県は共同利用資源(コモンズ)が多い。コモンズとは例えば、草原、森林、牧草地、漁場などをさす。今回の研修では、山梨県のコモンズの状況とその管理のしかたを自分の目で見ることができて大変勉強になった。コモンズの典型的な例である、山や湖などの誰も占有しない自然を観光資源として観光客を呼び込んだり、ニジマス等の養殖魚を繁殖させて地元の名産として、観光客に提供したりする様子を見る事ができた。

【インドネシア男子学生】

The most impressive experience was when we were visiting Matsumoto Castle. The fort was standing tall surrounded by deep trench. It looked to have five stories from outside, but actually it has a hidden story inside. I had some difficulties climbing the steep and slippery ladder. I wonder, men that live in the Matsumoto Castle during the Shogun era must be very strong doing it every day.

In the last day, we visited Kamikouchi, which literally looked like heaven on earth. Despite the rainy weather, I really enjoyed the autumn scenery during the mountain tracking. This kind of the scenery could not be found in my country.

【カンボジア女子学生】

In my perspective we have bridged the gap of culture and communication between Japanese and the ASEAN students through spending time with each other like a family. The trip provided me a good reunion time with all students, and everyone from ASJA scholars. We shared good memory together enjoying foods, visiting man-made and natural places, taught each other stories, learned about Japanese art of cloisonné, and so on.

【カンボジア男子学生】

I was very excited to see Mt. Fuji as a world cultural heritage for the very first time. The weather was cold on the mountain and temperature dropped by 0.6°C every 100m up the mountain. I could not imagine how the Japanese people live their lives around Mt. Fuji especially during cold winter. There is an old proverb saying "a picture worth a thousand words". And yet, one of the photos in Koyo Okada Photo Art Museum proves the proverb to be correct. In the photo, a farmer was collecting water outside his house with Mt. Fuji at the background. The photo made me imagine and wonder what it would be like, if I were the farmer in that photo.

【ベトナム女子学生】

The cloisonné work was very interesting and it was a great experience that I made a cloisonné by myself. The teachers were very kind and patient when they taught us step by step, one by one.

Before we left the National Chuo Youth Friendship Center, we cleaned the room we used. The cleaning was fun. Everyone shared the work so the cleaning finished very quickly.



アスジャ事務局だより



――学生の様子――

8月・9月：とても暑くて長い日本の夏でしたが、各学生達はホームステイやボランティアといったアスジャの活動に参加したり、日本国外へ出て研究の為に意欲的に研究活動をして夏を過ごした学生もいました。

アスジャ学生達にとってホームステイやボランティアの参加は日本で新たな人々に出会う良いチャンスであり、また多くの学生がそれぞれの場所でお世話になった方々に大変感謝していました。それぞれの場所でまた会いましょうと再会の約束をしてお別れした学生もいたようです。

10月・11月：学生によっては大学での勉強が後期に移る時期です。また一部の学生は新学期がスタートという学習環境です。どちらも大変忙しい時間をやりくりしてアスジャの活動に参加していました。

新入生は、アスジャの活動を通して新たな日本と人々との出会いに目を輝かしていました。また先輩学生達は自分の立場や、残されたアスジャでの時間を振り返らせることがしばしばあるようです。印象的なのは、新旧どちらであっても、日本での体験は何でもやりたいという意欲的な学生の姿でした。

――今後のスケジュール――

<2月>



―国際理解講座（タイ・カンボジア）



<3月>

―合宿研修 於：埼玉県国立女性教育会館

―アスジャ理事会及び修了式・活動報告会



――退任のご挨拶――

アスジャ事務局に在職中は大変お世話になりました。

早いもので、私にはアスジャに入局して2刊目のニュースレターのご案内になりますが、また一方で、退職のご挨拶をさせて頂くことになりました。

アスジャ職員として新しく吸収する事や初体験のことがあり社会人として学ぶべき事が数多くありました。

そしてまた、一個人として成長する機会を頂き大変感謝しております。

皆さまにおかれましては、益々のご活躍、そしてアセアン各国と日本の友好がさらに深まることを願って止みません。本当にありがとうございました。

（斉藤 幸）



――編集後記――

この度のフィリピンでの台風の猛威にスタッフ一同胸を痛めております。犠牲者の方々には心よりお悔やみを申し上げ、被災地の方々にお見舞い申し上げます。一日でも早い復興と皆さまに明るい笑顔の日々が戻りますように。

――次回予定――

次回のニュースレターは2014年4月刊行予定です。また、ASJAニュースレターにご意見、ご要望がありましたら皆さまのお声をinfo@asja.gr.jpまでお知らせください。皆さまからのお便りをお待ちしております。